

同窓生シリーズ

第99回



35回生 関根 聡 Satoshi Sekine

理化学研究所革新知能統合研究センター・言語情報アクセスチームチームリーダー、合同会社ランゲージ・クラウド主任研究員。

略歴／
1980年 都立新宿高校入学
1987年 東京工業大学理学部応用物理学卒業（地震予知の研究）
1992年 英国マンチェスター工科大学計算言語学部修士号
1998年 ニューヨーク大学コンピューターサイエンス学部修士号

松下電器産業株式会社（現パナソニック）、ソニー CSL、マイクロソフト研究所、楽天技術研究所ニューヨークなどでの研究職を歴任。情報処理学会自然言語処理研究会主査、その他役職多数。複数の企業の技術顧問なども兼任。

現在、Googleの自動翻訳やSiriなどのサービスでも用いられている自然言語処理研究の第一人者、理化学研究所チームリーダーで「コンピュータサイエンス博士の関根聡さんにお話を伺いました。」

自分に制限を設けず、自分が興味あることを一生懸命やること

「幼少のころや小中学生の頃は、どのようなお子さまだったのでしょうか？」

あまり将来に関する夢を持つことはなかったです。研究者という職業についても知りませんでしたし、スポーツで活躍しようとか思いませんでした。ただ、目の前に面白いことがあると集中しやすい子供だったようです。小学校4年の夏休みの自由研究で、自分の住んでいる区すべての小学校を自転車で回り、教員室を訪ね、さまざまな情報や写真を集めました。その時の先生に「これは100点満点で200点だ」と言われました。研究者としての原点だったかもしれません。

「新宿高校生時代についてお聞かせ頂けますでしょうか？」

勉強に関する能力や好奇心が特に伸びた時代だったと思います。特に高校2年生の時に、数学の先生が、新しい教科書を渡す時に「これを自分で学習して1ヶ月で終わらせた奴がいる」と言われま



中学生の頃、テレビのクイズ番組に出演

した。これを聞いて、「半分までやってやる」と思い、実際、初めて微分積分が出てきた高校2年生の数学の教科書を、数学の最初の授業が始まるまでに終わらせました。

また、中学時代から自転車で行くのが好きだったので、どうせやるならと思い、親戚がいる博多まで10日間かけて行きました。色々知らない土地に行き、自分で見聞きして、さまざまな人にも出会いました。特に覚えてるのは、大阪で泊まった友人の先輩が「年上の人から受けた恩は年下の人に返せ」と言われたことです。こういう自由な活動を見守ってくれた家庭環境も、今の私を作ってくれたのだと思います。



10日間で博多まで行ったことも

「進学した大学についてお聞かせ頂けますでしょうか？」

「選ばれた理由は？」
英語ができてなくて東大は現役では諦め東工大を受けたら現役で受かってしまいました。また、日黒区から新宿に通学する満員電車がなかったのが、大岡山にあり自転車で行ける東工大を受けました。大学で学ばれたこと、学校の雰囲気や特徴は？」

大学では勉強をしませんでした。今思うととても残念なことをしたなと思います。英国や米国の大学では、学生は本心に勉強しませんが、その経験は将来、知識を基にした職業に就く場合にはとても重要な資産になるので、大学時代は周りが遊んでいるからと遊んだりせずに勉強を懸命にして欲しいと思います。可能であれば、海外の大学に留学に行くことをお勧めします。

「自然言語学についてお聞かせ頂けますでしょうか？」

自然言語処理とは計算機が人間の話す言葉を扱えるようにすることを目的にした研究分野です。例えば、ネットでの検索やウェブの自動翻訳などはこの分野の成果です。今の技術はまた文字を文字としてしか扱っていない、その背後にある意味はきちんと扱えていません。なので、なぜそのような答えになったのかを人間のようにには説明できません。この説明を作ることが私の研究の目的になっています。

「この分野に進みたいきっかけは？」

計算機上でのプログラミングなどはとても好きだったので、計算機を使い人の役に立つ応用技術には興味がありました。そういった応用は様々なものがあつたのですが、偶然、松下電器の研究所で配属されたのが自然言語処理でした。

「留学された時のお話をお聞かせ頂けますでしょうか？」

英語は、会社の制度もあったために、英国に行く前に懸命に勉強しました。ある英会話学校で3ヶ月の間に、TOEFLの点数が最も上

がった人になりました。海外に行けば自然と外国語ができるようになることはまず難しいです。特に大学などで勉強するのならその授業がほぼ分かるようになってから留学した方がいいです。

「アメリカで働いて、感じられたことをお教え下さい。」

イメージで語られている「外国」というのは嘘が多いということを実感しました。実際に経験して生活すると、例えば、日本人よりも礼儀正しいアメリカ人も多くいますし、礼儀正しいと自分で思っている日本人は本質的に礼儀正しいのかという疑問も持ちます。あとは、自分の働いていた分野の特性かとは思いますが、自由な発想で、自分の責任において人生を歩んでいる人が多いと思います。これらは私の経験に基づいた感想ですが、ぜひ、多くの人がさまざまな経験をして多様な価値観があることを実感してみることをお勧めします。その経験が、自分の持つ価値観の立ち位置を客観的に作り、それを持つ意義などもしっかり持っているようになると思います。まさに、「井の中の蛙」にならないよう「大海」を見ることがいい経験になると思います。

「最後に新宿高校の後輩たちへのメッセージをお願いします。」

世の中には様々なタイプの人がいて、様々なことをしています。自分に制限を設けず、自分が興味あることを一生懸命やることで、自分の幸せにつながると思います。私のように、大きな夢を持たずに目の前にある面白いことを毎回とことんやっていったら、そのようなことで飯が食べている場合もあります。苦しいこととか、面白いことと思うことは長続きもしませんし、それが得意になることもなかなか難しいです。ただ、逆に「やりたいこと探しをしているんだ」と自分を客観視して見ているだけでは、やりたいことは見つからないと思います。目の前にある面白そうなことを「まずはやってみる」と。それが面白くないと思えばそこでやめればいいし、それが面白いと思えば、それをとことん続けたいと思えます。また、「何が面白いのか」の対象はもちろんのこと、基準もそれぞれ違うと思いますが、「他人の役に立つ」というのが重要な基準かなとも思います。そうすれば、そのやっていることに協力してくれる人も出てくるでしょうし、より大きなことを成し遂げられると思います。

「忙しい中、新宿高校の後輩達に向け、貴重なお話をありがとうございました。」



英国マンチェスター工科大学留学中

関根聡さんをもっと知りた方は、こちらにアクセス!

